

- ★ 横須賀市の水産振興の取り組み 1・2
- ★ 県立海洋科学高校の藻場再生への取り組み 2
- ★ 高校生アマモサミット2025が本市にて開催 2
- ★ トピックス 「荒崎海岸クリーンフェスタ2025初夏」開催 2
- ★ 令和7年度上半期の主な事業 3
- ★ 富浦公園前海浜清掃を実施 3
- ★ 令和7年度の役員及び評議員・令和6年度決算の概要 4

一般財団法人 横須賀西部水産振興事業団
〒240-0101 横須賀市長坂2-2-2 ☎080-8810-5132
URL <https://www.yokosuka-seibusuisan.org>

「西部水産振興だより」のバックナンバーや
「小田和湾の藻場環境」のパンフレットが
ダウンロードできます。ぜひご覧ください！



横須賀市の水産振興の取り組み

現在、大きな問題になっている「漁獲量の減少」や「磯焼けの拡大」などについて、横須賀市農水産業振興課にお聞きしました。

横須賀の海の幸

横須賀市は東京湾と相模湾という異なる海に面しており、さまざまな種類の魚介類が水揚げされる海の幸が豊富な地域です。東京湾側では、①アジや②タチウオなどの魚が漁獲され、③ノリや④ワカメの養殖も盛んに行われています。相模湾側では、主に定置網漁業で⑤イワシや⑥サバのほか、⑦しらすが⑧トラフグなども漁獲されています。なかでも、走水のノリや湘南しらすは「かながわブランド」に認定されており、本市を代表する特産品となっています。

1 アジ 2 タチウオ



3 ノリ 4 ワカメ



5 イワシ 6 サバ



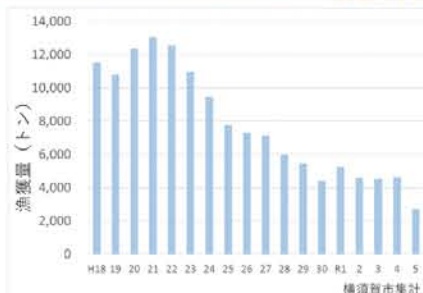
7 シラス 8 トラフグ



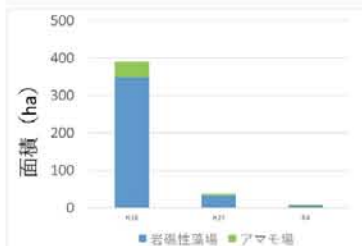
漁業を取り巻く問題（磯焼け）

本市には、東京湾側に1つ、相模湾側に2つの計3つの漁業協同組合があります。

約700名の漁業者が様々な漁法で漁業を営んでおり、これまで豊富な水産資源に恵まれてきましたが、近年、海水温の上昇に伴って全国的に発生している磯焼け（「藻場」と呼ばれる海藻がたくさん生えている場所が大きく失われる現象）などによって、漁獲量が減っています（グラフ1、2）。藻場は、魚の産卵場所や隠れ家としての役割を持つなど、多くの生物にとって大切な場所です。そのため、藻場が減少すると、そこで生活していた魚などが減り、それらを餌にしていた魚もいなくなるという悪循環が生まれます。さらに、海藻を餌とするサザエやアワビなどの貝類も減少し、漁業に大きな影響が出ています。



グラフ1
漁獲量の推移



グラフ2
藻場面積の推移

横須賀市の磯焼けへの対策

本市では磯焼けなどによる漁獲量の減少への対策として「天然の魚介類を増やす取り組み」及び「養殖によって魚介類を増やす取り組み」を実施しています。

「天然の魚介類を増やす取り組み」としては、磯焼けによって減少した藻場を再生する事業に取り組んでいます。令和6年度は、民間企業と協力し、カジメという海藻の移植（写真1、2）及び種まき（写真3）を行いました。移植したカジメは令和7年7月時点で順調に生育しています。今後も定期的にモニタリングし、生育状況を見守っていきます。

また、藻場の再生と並行して「養殖によって魚介類を増やす取り組み」も実施しています。天然資源だけに頼ることなく、漁獲量を増やすため、相模湾側でのヒオウギ貝養殖（写真4）や、東京湾側でのサーモン養殖、海ぶどう養殖への支援を行っています。

磯焼けなどによって、漁業を取り巻く環境は年々厳しくなっていますが、磯焼け対策や養殖支援を充実させることによって、今後も継続して水産業の振興を図ってまいります。



1：カジメ種苗の設置 写真提供：岡部株式会社



2：カジメ種苗の設置 写真提供：岡部株式会社



3：カジメの種まき 写真提供：岡部株式会社



4：ヒオウギ貝養殖



県立海洋科学高校の藻場再生への取り組み

小田和湾のアマモ場再生を目指し2021年から始まった植栽は、常にアイゴとの戦いです。

昨年は、アマモを目合1.5mmの網で囲っても、目合を通り抜けるアイゴ稚魚の侵入を許しアマモは全滅しました。そこで、アイゴの生態を知るための飼育観察や稚魚除けのネットの作製やネットがアマモの生長を阻害しないかを実験し準備を整えてきました。

そして、今年成魚にも稚魚にも食べられず、1年間アマモを維持することを目的に植栽が始まりました。

まず4月末に佐島から植栽スタート。佐島では嬉しいことに、昨年全滅する前にアマモに種が実り周辺に落ちていたらしく、発芽した苗が確認できました。そのままと食べられてしまうので囲い網内に移動。種が拡散する範囲や自然での苗の生長を見られたのは生徒にとっても貴重な機会でした。

さらに7月には規模拡大を目的に2つ目の囲い網を設置し、各々に本校で育てたアマモを植えました。そして、8月には

稚魚対策用に作製したネットを設置しました。

井尻海岸では、6月に植栽を実施。繁茂しているコアマモを隠れ蓑にしてアマモを食害から守れないか試しました。

これらの結果は、11月に横須賀市内にて開催される高校生アマモサミット2025で発表します。



囲い網



井尻海岸 左：コアマモ 右：アマモ



集合写真



海辺の自然再生 高校生アマモサミット2025 が本市にて開催

・日時 2025年11月1日（土）～3日（月・祝）
・会場 横須賀市内 ～今年も横須賀で行います～

<https://amamo-summit.net/>



トピックス

『荒崎海岸クリーンフェスタ 2025初夏』開催

6月8日（日）

「荒崎海岸クリーンフェスタ」が開催されました。荒崎公園駐車場手前の「なんやの浜」の海岸清掃とヒラメ4,000尾を放流しました。

当日の参加者は約120人で、ゴミ袋を片手に砂浜と岩場のゴミを集めてもらいました。イベントも開催され楽しい一日を過ごしました。次回は、

令和7年10月上旬の日曜日9時～ 荒崎海岸なんやの浜 参加無料、当日現地集合、小雨決行・荒天中止
詳しくは、<http://www.wafa.jp> TEL 045-663-5688



砂浜清掃

岩場清掃

ヒラメ放流

参加者集合写真

令和7年度

上半期の主な事業

当事業団は地域活動の支援、水産振興を事業の柱として、種苗放流や研修会開催などの事業を行っています。本年度前半の主な事業活動を紹介します。

稚魚（ヒラメ・マダイ・トラフグ）と稚貝（サザエ・トコブシ）の種苗放流を実施しました。

6月3日(火) 井尻漁港岸壁と佐島漁港岸壁から放流しました

ヒラメ

(平均全長84mm)当事業団12,000尾と(公財)神奈川県栽培漁業協会分、両漁協購入分を合わせて、合計32,200尾



6月10日(火) 長井漁港の沖合に放流しました

サザエ

(平均殻高17mm)当事業団20,500個と漁協購入分を合わせて 42,700個



トコブシ

(平均殻長15mm)当事業団5,000個と漁協購入分を合わせて10,000個



7月16日(水) 西浄化センター前岸壁から放流しました

マダイ

(平均全長68.3mm)当事業団8,000尾と(公財)神奈川県栽培漁業協会分を合わせて、合計19,000尾



7月29日(火) 長井漁港沖合と西浄化センター前岸壁から放流しました

トラフグ

(平均全長55mm) 10,000尾



富浦公園前 海浜清掃を実施

7月10日(木)

例年実施している富浦公園前海浜清掃は、地元中学校の生徒及び先生方が都合により参加できなくなったため、市職員（上下水道局・経済部）及び当事業団職員により実施いたしました。海岸に打上げられた海藻も回収しきれいな砂浜に蘇りました。



suisan

3

令和7年度の役員及び評議員

令和7年4月1日「一般財団法人横須賀西部水産振興事業団」は、12年目をスタートしました。3名の役員に変更があり、理事の長澤毅氏、評議員の清水詢道氏、監事の松尾智子氏が退任されました。

役員(理事10名、監事2名)名簿

令和7年5月29日(敬称略)

No.	役職名	氏名
1	理事長	小澤 紳一郎
2	副理事長	福本 憲治
3	専務理事	谷 英明
4	理事	今井 利為
5	理事	梶ヶ谷 泰宏
6	理事	杉山 裕二
7	理事	角井 充
8	理事	新倉 繁
9	理事	山田 利一
10	理事	平野 敏幸
1	監事	村野 勝
2	監事	石渡 敏幸

※下線は新任

評議員(10名)名簿

令和7年5月29日(敬称略)

No.	役職名	氏名
1	評議員	石渡 修
2	評議員	小杉 邦洋
3	評議員	滝口 直之
4	評議員	砂村 芳行
5	評議員	土地 敬洋
6	評議員	田中 達夫
7	評議員	鈴木 直樹
8	評議員	河西 勉
9	評議員	原田 洋治
10	評議員	樋爪 由幸

※下線は新任

令和6年度 決算の概要

令和7年5月29日に開催された令和7年度定時評議員会において、令和6年度の事業報告及び決算について承認されました。

令和6年度の経常収入(利息)は7,390,071円、支出は事業費及び管理費を合計して22,548,840円であり、当期経常増減額は15,158,769円の減となり、その減を基本財産の取崩及び繰越金支出により収支のバランスを取りました。この結果、正味財産期末残高は5年度末の残高より16,013,889円減少し、401,466,265円となりました。決算の概要は次のとおりです。

決算の概要 (令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部

(1)経常収益

① 基本財産運用益	7,191,108円
② 雑収益	198,963円
経常収益計	7,390,071円

(2)経常費用

① 環境保全事業	2,717,227円
海岸・漁港清掃助成金など	
② 調査研究及び保護培養事業	8,096,930円
水産物の調査・研究事業の助成金	
種苗購入費など	
③ 研修事業	1,104,446円
海洋プラスチック汚染の現状	
④ 広報事業	895,544円
西部水産振興だよりNo.53、No.54製作費	
⑤ 経営安定事業	8,000,000円
漁業協同組合に対する経営資金等の助成金	
事業費計	20,814,147円

⑥ 管理費

役員の会議出席報酬	1,734,693円
関係団体年会費等負担金など	
※人件費は各事業に配分し支出している。	
経常費用計	22,548,840円
当期経常増減額	△15,158,769円

2. 経常外増減の部

(1)経常外収益	14,000,000円
(2)経常外費用	834,000円
当期経常外増減額	13,166,000円
当期一般正味財産増減額	△1,992,769円
一般正味財産期首残高	25,477,294円
一般正味財産期末残高	23,484,525円

II 指定正味財産増減の部

当期指定正味財産増減額	△14,021,120円
指定正味財産期首残高	392,002,860円
指定正味財産期末残高	377,981,740円

III 正味財産期末残高

正味財産期末残高	401,466,265円
----------	--------------